



ゲストティーチャー・いちご農家さん

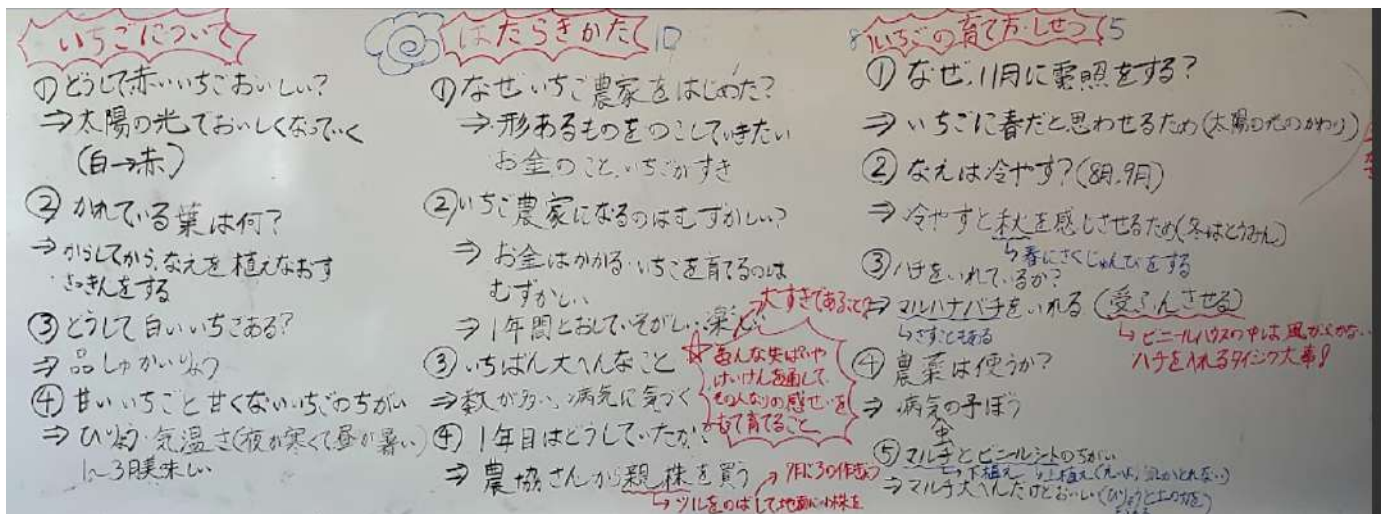
23日(水)に、いちご農家の小野さんをゲストティーチャーとして招待しました。社会科の「農家の仕事」の学習のためです。

事前に自分たちで調べられることは調べ、疑問をもった状態で臨みましたが、授業開始時に「どうしてゲストティーチャーに質問をするの?」と問いかけました。

すると、「Safariで調べても分からない詳しいことを知るため」という答えが返ってきました。活動の目的をしっかりと理解できていて感心しました。

授業も、開始から終了まで質問が絶えることがありませんでした。

ホワイトボードの端までメモが埋まるほどの情報量でしたが、もっと質問しなかったようで、授業が終わった後も個人的に小野さんに質問に行った子もいました。



3年生の社会科では、働く人の工夫や思いに迫ることを目的としています。

「農家で働く人」「お店で働く人」「消防や警察で働く人」が、それぞれのどんな工夫をして、どんな思いで働いているかを知ること、社会の仕事や仕組みへの関心を高めていきます。

今回で言うといちご農家の小野さんは、「一番大変な仕事は温度管理。少しでもさばると、すぐに育ちすぎてダメになってしまう」「お金をもらうためもあるからいっぱい作りたいという思いもあるけど、お客さんの口に入るものだからできるだけおいしく食べてもらいたい。おいしいとたくさんの両立を目指している」「何年も試行錯誤して、積み重ねていくことが」と語っていました。

私も子どもたちと一緒に学習していて、とてもおもしろかったです。

小野さんですが、「小野イチゴ農園 岐阜」で検索すると、いくつかインタビュー記事が出てきます。そちらの記事も、小野さんの温かな人柄が伝わってきて、とても素敵な記事でしたので、ぜひ調べてみてください。



【2組の子たちといちご農家の小野さんで記念撮影】

どうしていちご農家？

そもそも「農家の仕事」で、いちご農家を取り扱ったのは、社会の教科書を基にしたからですが、教科書はなぜ農家を教材として選んだのでしょうか。それにはよく考えられたいくつもの理由があります。

- ①子どもに人気で親しみやすく、「いちご狩り」などなじみのある作物だから
- ②収穫時期以外にも、1年を通して様々な作業があるから
- ③機械による栽培管理や農家の努力や工夫が多いから
- ④ビジュアルがよくて教科書の構成がしやすく、視覚的にも見やすいから
- ⑤地域によらず、全国的に栽培されているから

調べてみて、自分も温度や水の機械管理の視点は抜けていました。確かに現代農業へのつながりの点でも、いちごはよい教材だなと感じました。

今回学習してみて、やはりいちご狩りを体験している子は多く、「いちごの台」「ビニールハウス」「手で摘む」などの内容はとてもイメージしやすかったようで、子どもにとってもよい教材だったようです。